

令和2年

6月17日(水)

(通算358回)

旧東海道伊勢国を歩く② 富田～四日市

参加者	7名	歩数	15,000歩
-----	----	----	---------

新型コロナウイルス感染症予防の為、2ヶ月間休会後の例会開催。当初6月10日の予定であったが、あいにく梅雨入りとなり雨天で一旦中止、天気回復を待って1週間後の開催となる。幸い当日は梅雨時とは思えないほど爽やかな風が吹き、足取りも軽く近鉄富田駅を9時40分スタート。旧東海道に入ると間もなく、富田小学校の校門脇に明治天皇駐輦(ちゅうれん)跡碑が目にとまる。駐輦とは天皇が一時滞在することで、焼き蛤が気に入り4回も立ち寄ったとのこと。しばらく歩くと古刹・常照寺に着き、境内で集合写真を撮る。さらに進むとカ石(ちからいし)が見えてくる。茂福(もちぶく)村のお堂建設にあたった男たちがカ比べをしたと伝えられる石で重さは32貫(約百二十キログラム)もあり、肩まで持ち上げられる者はほとんどいなかったとか。茂福神社、常夜灯、名残松、志氏(しで)神社、光明寺を経て、江戸時代から「なが餅」で知られる笹井屋に着き店内で小休止。歩き始めて約2時間30分経過し昼時になり、しばらく先にある海蔵川畔の堀川花菖蒲園のあずまやで昼食。午後は三ツ谷一里塚跡、法泉寺を経て三滝橋(歌川広重の描いた三滝橋はこのあたりと言われている)を渡り四日市宿へ。残念ながら当時宿場にあった問屋場、本陣跡などの案内版は見当たらず、手差しの道標を見ながら諏訪神社に到着。参拝後、全国でも珍しいアーケード街となっている旧東海道を通り近鉄四日市駅へ。駅ビル内の喫茶コーナーで歓談後14時解散する。

記 奥村 正忠



常照寺



カ石



常夜灯